
第5章 運動の進め方

5-1. 運動を進める上で大切にしたいこと

航空連合は、第 22 期に航空連合ビジョン「いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、誇りをもって働ける産業」を掲げた。この航空連合ビジョンをめざす上で、具体的な政策の大きな柱として「産業政策」と「労働政策」があるが、労働政策については、産業政策のように包括した取り組みを実施していなかった。

しかしながら第 22 期の議論において、労働環境の改善・向上をめざすうえでは、課題によっては春闘の時期に限らず通年、もしくは複数年の労使での協議、検討をおこなう必要があることに加えて、特に産業全体で COVID-19 の影響を大きく受けている中で、労働条件をはじめとする労働環境を継続的に整備していくためには、労働政策の中期的な方針を掲げ、産業に集う仲間が一丸となって取り組みを加速していくことが必要不可欠であるとの結論に至り、中期労働政策方針を策定することとした。

中期労働政策を実現させるための運動を進めていくうえで重要なことは、この中期労働政策に対する共感の輪を広げていくことである。この中期労働政策の理解者を増やし、少しずつ啓蒙を行っていくことが重要であり、それが中期労働政策の取り組みの継続性につながる。航空関連産業の発展のためにも、この考え方や捉え方を確実に広めていくことが重要である。

5-2. 単年度春闘方針との関係

今回の中期労働政策は 2022 年から 2025 年の 4 年間をかけて取り組むものである。一方、労使関係においては、春季生活闘争において、賃金をはじめとした各種制度について交渉をおこない、新年度を迎える環境を整備することが一般的である。中期労働政策方針をベースに最新の職場状況、経済情勢などをふまえて短期間(春闘期間)で集中して取り組むべきことを単年度春闘方針として運動を進めていく。また、春闘が終了した際には、達成できた項目、できていない項目の振り返りを行い、労使ともに継続した取り組みとなるようにしていく。

5-3. 次期中期労働政策方針の策定に向けて

航空連合中期労働政策方針は、航空関連産業に集う仲間の労働条件を継続的に向上させるべく策定を行っている。この中期労働施策方針(2022-2025)に込めた想いは変わるものではない。一方で、世の中の情勢はめまぐるしく変化しており、働く環境に関しても、その渦中にある。この中期期間中(2022-2025)においても、COVID-19 をめぐる変化や、現時点では予測できていない変化も想定されることから、前半が終了する 2 年後において、中間総括およびローリングプランを策定することを念頭に運動を進めていく。また、次期中期労働政策方針(2026～)については、今中期期間中の春闘を含めた取り組みを総括し、より多くの組織がこの中期労働政策方針に取り組めるよう計画的に策定をおこなうこととする。